

日本介護福祉学会通信

No. 86



2025年7月発行

発行：日本介護福祉学会 The Japanese Association of Research on Care and Welfare
〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 (株)国際文献社内

第33回日本介護福祉学会大会 いよいよ開催！

大会テーマ 介護福祉の「シンカ」を問う
～介護福祉学の30年を振り返って～

大会日時 2025(令和7)年 9月6日(土)～7日(日)

大会会場 仙台大学(〒989-1693 宮城県柴田郡柴田町船岡南 2丁目 2-18)



第33回日本介護福祉学会大会は仙台大学(宮城県柴田町)において、2025年9月6日(土)～7日(日)の2日間にわたり開催します。メイン会場でのプログラムはハイフレックス(対面+オンライン)方式で運営します。多くの会員の皆様にとって有意義な大会にすべく様々な企画を催して参りたいと存じます。

また、参加受付を行っておりますので、皆様のご参加をお待ち申し上げます。

第33回日本介護福祉学会実行委員会

【第33回 日本介護福祉学会大会 実行委員会】

大会長 大山 さく子(仙台大学)

実行委員長 堀江 竜弥(仙台大学)

実行委員 後藤 満枝(仙台大学)・福田 伸雄(仙台大学)・篠原 真弓(仙台大学)

山野 英伯(東北福祉大学)・相場 恵(東北福祉大学)・二渡 努(東北福祉大学)

大会に参加される皆様へ(ご案内)

【対面参加の皆さまへ】

1. 受付方法

- 当日受付は、総合受付(仙台大学LC棟1F)にて行います。
- クロークはプログラム開始30分前～終了30分後まで受け付けます。
- 当日受付で、ご所属とお名前を確認し、参加証をお渡しします。
- 参加証を着用していない方の入場はお断りいたします。
- 懇親会は事前申し込みのみ受け付けております。当日受付はできません。
- 当日受付は混み合う可能性がありますので、事前参加登録をお願いいたします。

2. 昼食、機器展示等について

- 2日目の昼食ではキッチンカー等をご用意致します。ぜひ、ご利用ください。
- 近隣にコンビニエンスストアがございます(徒歩5分程度)。
- 機器展示や書籍販売を行います。ぜひ、見学・ご利用ください。

3. その他

- プログラムに関する録音、録画はご遠慮ください。
- お車でのご越しの場合は、指定の駐車場をご利用ください。

【オンライン参加の皆さまへ】

1. 視聴方法

- 事前申し込みでのみ受け付けております。
- 開催3日前までに、参加用URLをお送りします。Zoomを使用します。
- 参加される場合には、お名前(ご所属)を明記ください。
- 参加可能なのはメイン会場のプログラムのみです。研究発表には参加できません。
- 学会総会は、会員のみ視聴することができます。
- マイク、カメラはoffでご視聴ください。質疑応答のあるプログラムではマイクをonにしてご発言ください。

2. その他

- プログラムに関する録音、録画はご遠慮ください。
- 複数名での視聴はご遠慮ください。

【参加費】

	4/1~5/31	6/1~7/31	8/1以降
会員	6,000	8,000	10,000
非会員	9,000	10,000	12,000
施設関係者(S参加)	1,000	1,000	1,000
学生	1,000	1,000	1,000

懇親会の受付も行っております(締切8/31まで、参加費5,000円)

《学会大会共催》 東北地区公開講座（ご案内）

担当理事 中村裕子

東北地区では、今年5月に「公開ワークショップ」を開催し、「学会員としてやってみたいこと & 学会員だからこそ出来ること」について話し合いました。

本ワークショップでは、報告者の全員が、介護や養成教育の現場に従事した経験者でした。そして学会員となり、学会活動に参加して発表し、評議員や理事として地区活動に関わってこられました。このような学会との関係性を築く過程で、報告者はそれぞれに自身の研究テーマを見つけたり、研究結果を紐解くための資料に出会ったり、研究法を学ぶなどの体験をされ、ワークショップでは、それらの経緯について発表して頂きました。

今回の「公開講座」では、これら報告者の“学会活動で得た知見や機会”から誕生した4つの研究について、御発表頂きます。これら研究内容を知ると同時に、“学会活動との関係”を理解する事により、介護福祉活動の実践者である私達は、学会活動を活かして「何時でも誰でも“研究”に取り組めること」を、そして又「現場から誕生した研究は、現場の問題解決に役立つこと」を、知って頂けたら大変有難く思う次第です。全国の学会員の皆様方と学会共催の「公開講座」でお会いできることを、関係者一同楽しみに致しております。

（東北地区「公開講座」担当者一同）

東北地区「公開講座」の概要

日時： 2025年9月7日(日) 14:40～16:10

主題：「介護や養成教育現場の問題解決に、“研究”って本当に役に立つの？

そして “研究”って、誰でも出来るようになるの？」

— 学会の役割を知り、学会活動への参加が“研究する”の第一歩—

1. 「学会員が“学会の役割”を知る時」(仮題)

中村 裕子(日本ヒューマンヘルスケア研究所所長)

2. 「介護過程(観察・確認の視点)を外国人介護人材に指導するには

—生活習慣の異なる留学生に自立支援を理解してもらう壁を乗り越えて—」(仮題)

小川 あゆみ(八戸学院大学短期大学部教授)

3. 「パンデミック時における介護職員の果たすべき役割

—利用者のQOLと尊厳の保持を実践する必然性—」(仮題)

松永 繁(岩手県立大学准教授)

4. 「やまがた介護プライドキャンペーン活動による介護人材育成の長所

—養成校教育では得難い介護従事者への働きかけ—」(仮題)

横尾 成美(東北文教大学教授)

連載企画 「私と介護」(9)

介護に対する個人的想いと研究活動

坂本 毅啓

日本介護福祉学会理事

(公立大学法人 北九州市立大学 教授)



滋賀県出身。高校時代の怪我と、朗読ボランティアをしていた母の影響を受けて、障害児ボランティアへ参加。その後、理系から文系へ転向して福祉系大学へ進学。2000年より関西を中心に介護福祉士養成・社会福祉士養成に携わる。2010年に北九州市立大学に着任。北九州で学生と共に多様な地域福祉活動に励む。

○分岐点としてのボランティア活動

いきなりですが、私の専門は社会福祉学です。2023年に学会誌『介護福祉学』で、ソーシャルワーク教育におけるICT活用に関する論文を掲載していただきました。しばしば「ICTの人」と認識されることがあります。確かにICT領域の研究にも力を入れてきましたが、私の原点は社会福祉学そのものにあります。社会福祉学原理やソーシャルワーク論の古典的名著を読み、理論と実践の両面から研究に取り組んできました。そのような私がどのようにして現在に至ったのか、そこから述べさせていただきます。

私は高校1年生の終わりから両膝の関節炎が悪化したことから、それまで続けてきたサッカー部を辞めることになりました。そのような私が社会福祉学に興味を持ったきっかけは、高校2年生の夏休みの前に高校で配布された「大津市サマースクール」という障害児支援のボランティア募集のチラシでした。「偏屈かつ荒んでいた(思春期特有の拗らせ)」私は、ふと参加してみようと思い、夏休みの内、20日間参加させていただきました。このボランティアで関わった(障害を持った)子どもたちと、近所の公園で遊ぶ子ども

たちとの違いに疑問を抱き、「障害を持った彼らはこれからどう生きていくのか？」という問いが、私の進路を決定づけました。

周囲からは「なぜ、男のお前がそんなことを？」と奇異な目で見られたこともありましたが、母が朗読ボランティアとして活動する姿を見て育った私にとって、福祉は自然な関心の対象であったのだと思います。また、両膝の関節炎に悩まされ、自由にスポーツができなくなった(高校2年生の体育の授業は1年間見学)経験、つまり身体的な制約が、社会との新たな接点を生み出してくれたと思います。大学進学後も福祉への関心は途切れることなく、大学院へと進学し、研究の道を歩み始めました。

○介護との出会いと原体験

介護との直接的な関わりについては、二つの原体験が私の中に深く刻まれています。

一つは、大学生時代に行っていたレスパイトボランティア活動です。障害児支援の「大津市サマースクール」で関わりのあった保護者から、長期休暇以外の週末や休日にも居場所支援をしてほしいという

相談を受け、仲間の大学生と連携して活動を始めました。私は重度の脳性麻痺を持つノブ君のお宅へ伺い、夕方の時間に一緒に遊んだり、食事の介助をしたりしました。翌週、再び訪問した際、ノブ君のお母さんから「初めて、ゆっくりと新聞を読んだり、ご飯を食べることができた気がした。とても助かってますよ」と言われました。その言葉を聞いた瞬間、日々の介護がどれほどの負担であるかを実感し、障害児支援においては子どもだけでなく、家族全体を支える視点が不可欠であることを学びました。介護は単なる身体的な支援ではなく、家族の生活の質や尊厳に深く関わる営みであることを、身をもって知る経験でした。

もう一つは、祖母との別れです。祖父も祖母も病院で亡くなりましたが、特に祖母の最期については、20年以上経った今でも納得がいけない思いがあります。祖父が亡くなった後、田舎で一人暮らしをしていた祖母は体調を崩し、私の家で同居することになりました。ショートステイサービスを利用した際には、「あんな『姥捨て山』みたいな所には、二度と行きたくない」と言われ、その後はおじさん達の家を転々とする生活が続きました。最終的には田舎に戻り、病院に入院することになりましたが、老人ホームに入所することに抵抗感を持つ親族の意向もあり、典型的な社会的入院の形で過ごしました。最期は病院で、家族に看取られることなく亡くなりました。すでに専門学校の教員として社会福祉を教えていた私にとってこのような「本人と家族の意向が異なる場合」の介護のあり方と終末期の過ごし方は、非常に納得のいかないものでした。

○研究活動と介護福祉学会での取り組み

もともと学会活動に強い関心があったわけではありませんでしたが、2000年に介護保険制度が始まった頃から、介護ニーズと経済的困窮が複合する生活問題に対して、日本の介護保険制度が十分に

対応できていないのではないかとという問題意識を持ち続けてきました。そして現職に着任した2010年以降、日本介護福祉学会で研究発表を続けさせていただいています。最近は地域ケアの政策的あり方について、地域住民(ボランティア)、互助・共助に着目しアクションリサーチに取り組み続けています。社会科学的・政策論的な研究が学会として弱いのではないかと疑問を持ち、介護福祉政策のあり方について、学会がより積極的に発信する必要があると考えています。介護福祉学が、現場の実践だけでなく、制度設計や政策提言にも貢献できる学問であるべきだという信念のもと、社会福祉学の立場から介護福祉学の研究を続けさせていただいています。

○未来へのまなざし

2009年から介護教員講習会に関わり、2017年度からは2022年度まで研究方法を担当させていただきました(2023~2024年度は社会福祉学)。講習会では常に「ぜひ日本介護福祉学会に入会し、まずは研究発表から始めてください」と伝えていますが、なかなか会員獲得には至らず、もどかしさを感じています。それでも、介護福祉学の研究者を増やしたいという思いは変わりません。

現在、本務大学大学院では修士・博士課程での指導を担当しており、中国からの留学生も複数受け入れ、研究指導をしています。留学生の半数以上が介護福祉に関する研究を志望しており、国籍や年齢を問わず、福祉領域の研究を学べる環境の提供に貢献し続けたいと考えています。九州・沖縄地区では、福祉領域を扱う博士課程を持つ大学院は限られており、地域における研究拠点としての役割も担っています。介護福祉学は、現場の実践と理論の架け橋となる学問です。これからも、日本の介護福祉学を担う研究者・教育者の育成にも、微力ながら尽力していきたいと考えています。

地区活動紹介(2) 「近畿地区」

2024年度 近畿地区公開講座

「職場を元気にするリーダーシップとマネジメント」

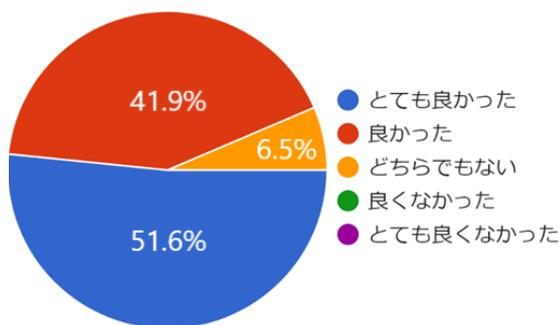
高齢化社会の進展に伴って、認知症高齢者や単身高齢者世帯が増加し、介護ニーズは複雑化・多様化・高度化しています。介護現場は、チームで連携して対応できる能力が強く求められるようになりました。

近畿地区では、ZOOMミーティングによるオンラインの公開講座の開催を企画しました。

2025年2月16日、全国から54名様のお申し込みがあり、当日は45名様に受講していただきました。

公開講座の講師は、大阪府八尾市に所在する社会福祉法人久義会 特別養護老人ホーム高秀苑の山下聡理(やました そうり)氏に依頼しました。山下氏は、現場経験を経て、現場をマネジメントする立場で改革や改善に取り組んでおられます。講座では、介護現場におけるリーダーシップやマネジメントの必要性についてご講演いただきました。

公開講座後のアンケートは31件の回答があり、公開講座の内容についての評価は、下記の通りでした。



自由記述は23件の回答がありました。その一部をご紹介します。

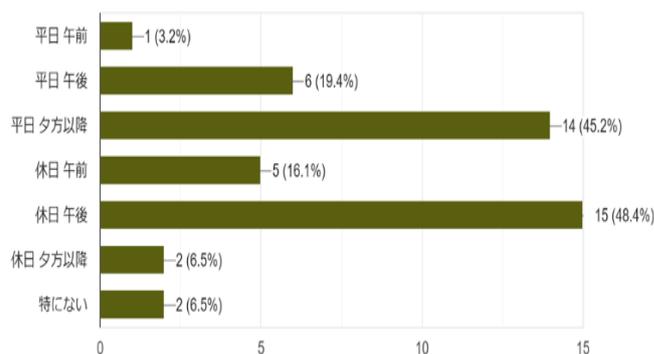
「具体例を挙げてくださりわかりやすかったです。教育担当として、自施設においても活かしていきたいです。本日はありがとうございました。」「やはりチームマネジメントには意思疎通が必要で、コミュニケーションが基盤になることを感じました。資料も頂戴

できるとのことですので、頂いて、学びを深めたいと思います。運営されている皆様お疲れさまでした。」「学生にも聞いてほしい内容でした。」「介護の現場でチームケアを実践していくためには、チームマネジメントやリーダーシップの学習が必要であることを再認識できました。人材を育成していく上においても、チームとして目標を達成するためにも、コミュニケーション技術の活用は非常に重要であると改めて実感しました。ケアスタッフの資質向上を目指し、自施設の組織風土を見直す機会となった素晴らしい内容の講義でした。終始ご丁寧にお話ししてくださった講師の山下先生、本当にありがとうございました。」「リーダーを育成するにあたり、上手いできない事が多く、業務重視で育成していたことに気づけました。色々なタイプがいて良いと伝えても、リーダー = トップダウンのイメージが強く、リーダー自体を嫌がったり、偉くなりたいという単純な理由でなろうとしたり、という事が起こっていました。信頼を勝ち取る方法は個で違うと思うので、今後は一緒に考えながら、自分自身もそうなるよう精進したいと思います。」「現場感が良く伝わり、分かり易い大切なお話だったと思います。」「わかりやすかったのでよかったです。現場で実際に行った事例をもっと聞きたくなりました。」「リーダーシップとマネジメントについて、講師のこれまでの実践経験を踏まえて分かりやすくご講義されて大変学びになりました。」「オンラインでの参加で毎回勉強させてもらっています。今回のチームマネジメントは現場にとってはわかりやすく、どのようにアクションを起こせばいいか取り組むヒントがありました。ありがとうございました。」「本日は、現場で組織を改革された貴重なお話を伺うことができました。継続的に現場で研修を行う必要性を感じました。また、当法人で

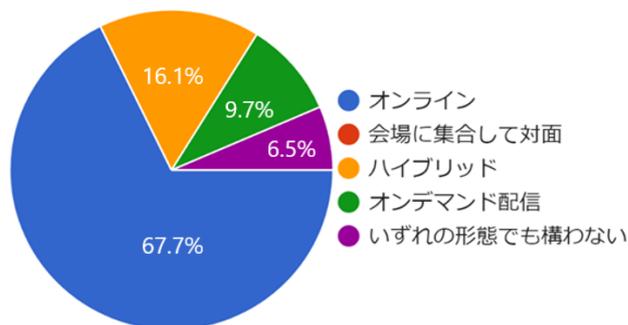
も職員が組織の方向性・目標設定に参画することで意欲的に仕事に取り組むようになることが期待できると思いました。ありがとうございました。」「最近、介護現場から‘リーダーシップ’等のマネジメントに関する研修を委託されることが増えました。山下先生も仰ってしまいましたが、人材不足が深刻な状況で、リーダーとしてどうあるべきか迷い、良いケアをしたい・離職を減らしたい・選ばれる職場にしたいけれど、どうして良いかわからない介護福祉士は多いと思います。その思いに応えるために、どのように研修をしたら良いか迷うことが多いのですが、本日の研修内容にヒントがたくさんありました。ぜひ、今日学んだことを活かして、介護現場に還元したいと思います。山下先生、ありがとうございました。」「実践でのエピソードや、対応したことでのマネジメントの現場の話がもう少しあれば良かったと思います。」「同様の課題を抱えており、とても参考になりました。明日、法人の介護主任を集めての研修会を開催する予定になっており、少しずつ頑張っていくと思います。」「施設での具体的な取り組みを聞くことができ、留学生や外国人介護職員を雇用されている施設ということで、大変参考になりました。また、講師の先生におかれましても、よく研究されていることが伝わる内容でした。ありがとうございました。」「‘リーダーシップ’、‘モチベーション’、‘スーパービジョン’等の理論をベースとした実践について詳しくお話いただき、大変参考になりました。お話しいただく際に、理論と実践を結び付けてお示しいただければ、さらに聴講者の学びが深まると感じました。今後もマネジメントに関わるテーマで実践報告を頂く機会があれば是非参加させていただきたいと思いました。」「法人の責任者が法人理念を職員に伝えることがいかに大事か再度確認できました。利益ばかりを追求する施設が多くなってきたと感じます。このままでは介護業界は衰退していくのではないかと危惧しています。」

など、リーダーシップやマネジメントに対する関心の高さが伺える回答がありました。

参加しやすい開催日時については、31件の回答の内訳(複数回答可)は、下記の通りでした。



希望する開催形態については、下記の通りでした。



近畿地区では、アンケートの結果を踏まえた上で、日本介護福祉学会員の皆様のみならず、非会員の方々にも参加していただける公開講座の開催を今後も検討してまいります。

2025年度も引き続き、宜しくお願い致します。



第11期 近畿地区担当理事 久保田 寛

会費納入のお願い

本会は会員の皆様の会費により、運営しております。近年、会費未納により退会となる事例が問題となっております(会費を3年滞納された場合は、理事会の承認を経て退会処理となります)。

学会運営の健全化を導くうえでも、会員の皆様の会費の納入率の向上が必須です。どうぞ宜しくお願い致します。

正会員:9,000 円 学生会員:3,000 円

《会費振込口座》

◎郵便振替口座

00180-7-417389

加入者名:日本介護福祉学会

(他金融機関からのお振込みの場合)

〇一九(ゼロイチキュウ)店 当座 0417389

◎みずほ銀行 江戸川橋支店(545) 普通預金
口座番号:1213646 口座名義:日本介護福祉学会
(ニホンカイゴフクシガクカイ)

本会の活動資金の大部分は、会員の皆様の会費によって成り立っています。学会の円滑な運営のため、ご理解ご協力を賜りますよう、何卒よろしく願い申し上げます。

▼お問い合わせ先▼

〒162-0801

東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

日本介護福祉学会 事務センター

TEL:03-6824-9378, FAX:03-5227-8631

E-mail:jarcw-post@bunken.co.jp

編集後記

第33回日本介護福祉学会大会がいよいよ近づいてまいりました。

介護福祉は、介護福祉士制度の創設から今日に至るまで、制度的にも学問的にも発展を遂げてきました。その歩みは、社会の変化とともに絶えず問い直されてきたとも言えます。高齢社会の進行や介護保険制度の施行、認知症ケアや地域包括ケアの推進、さらにはICTの導入や外国人介護人材の受け入れなど、実践の現場は大きく様変わりしています。そうした変化の中で、介護福祉学は実践の「現場」と「学び」をつなぐ知の営みとして、また、人と人とのかかわりの価値を探求する学問として、着実にその基盤を築いてきたように思います。今大会のテーマで掲げられた「介護福祉の『シンカ』を問う～介護福祉学の30年を振り返って～」の「シンカ(深化・進化・真価)」

という言葉には、介護福祉における多様な「シンカ」の軌跡を改めて見つめ直し、次なるステージに向けて何を継承し、何を問い直すのか、という私たちへの問いかけが込められていると思います。大会では、基調講演・企画プログラム・一般研究発表など、学際的かつ実践的な学びの機会が数多く企画されています。

私自身も本大会に参加することで、これまでの知見を振り返り、今後の研究や実践への理解を深めていく機会としたいと考えております。そして、会員の皆さまと直接お会いし、対話を重ねられることを心より楽しみにしております。(二瓶)

第11期 広報委員会

理事 二瓶 さやか

評議員 内田 和宏

金山 峰之